

---

# 運命の人 2

慶太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

運命の人2

### 【Nコード】

N7769D

### 【作者名】

慶太

### 【あらすじ】

ある男の青春時代の話です。1話目より大分進みました

## （前書き）

だんだん何書いてるのか自分でもストーリーが見えなくなってきました。

それは告白をした3日後の事だった。

その朝、彼女の髪には俺がプレゼントした髪結いがあった！

俺はそれを見てとても嬉しくなった。そして、その日から幸福な朝がやって来た。俺たちの関係は水が地面に流れるようにゆっくりと始まった

『先生ーそのシユシユ何処で買ったんですかー？』ある日の昼休み髪結いを一緒に探させた

女友達がその言葉を口にした一瞬、俺の中で緊張が走った

先生はミステリアスな笑顔で『さー何処でしょう？』と微笑んだその日の放課後、俺が帰宅しようとして下駄箱に居たらそいつがやってきて

意味ありげな笑みを浮かべて『ま、精々がんばって』と言って去っていった

時に女は鋭いそして、未恐ろしい……。そしてそんな中、悲劇は訪れた

あんなに求めたのに彼女は俺を裏切った・・・

そう、冬休みのことだった少し早いクリスマスにしようと思って内緒でケーキを買って

先生のアパートへ自転車で行った

先生の居る部屋の下に着くと階段から降りてくる男がいた

茶髪でロン髪<sup>げ</sup>背は180位ある長身の男だそんな彼を見ていると先生の部屋のドアが開く音がした

そして、そいつに大きく手を振ろうとした先生がいた

そう、俺がいたので先生は振りかけた手を止めた

その時の事はもうそれ以上覚えていない・・・

ただその後、ドア越しに先生のために買ったケーキだけ置いてその場から去った

冬休みも終わり等々高校が始まる朝からいやな気分だ

あれ以来先生とは何も連絡を取っていないきつとこんな俺の事を腹の底で

『馬鹿な男』と笑っているだろう・・・。

『お・はよ』下駄箱で女友達が挨拶をしてきた

そんな彼女は俺の顔を見て何かを察知した『どうしたの？元氣ないね』

俺は挨拶だけして去ろうとしたそんな背中越しに『先生でしょ』

俺は気にせず足を動かした『何で私が精々頑張ってるって言ったか分かった？』

『先生が何人もの人と遊んでるからだよ』俺の足が止まる

「初めから遊ばれてたんだ」諦めと同時に沸々とやるせない気持ちちが溢れてくる

俺はじゅつと歯を噛み締め教室へ向かった。後から付いてくるように女友達も教室に現れた

今日一日が嫌なことなく早く終わってくれ心の中で何度も思ったそんな俺の顔をその女友達は遠くから見ていた彼女にどう思われていても

俺の心は喪失感と怒りが溢れていた

4時限目の移動教室の時、保健室の廊下を通らなくてはいけない俺は下を向いて見ないように通ろうと思って歩いていたら

彼女に呼び止められた。昼休みに体育館裏に来いという事だったそしてその昼休み俺は行くのを躊躇った

何を言われるのか分らない？これ以上俺の事を本当は傷つけないでほしい

これが最後だと思って重たい脚を体育館裏へ運ばせた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7769d/>

---

運命の人 2

2010年12月31日23時03分発行